

電子版

脱農薬てんとう資料集

—第8号—

ダイオキシン含有農薬と POPs 系農薬

(2007年9月)

発行 反農薬東京グループ

〒202-0021 東京都西東京市東伏見 2-2-28-B

電話／ファックス：042-463-3027

E-mail：mtsuji@jcom.home.ne.jp

URL <http://home.e06.itscom.net/chemiweb/ladybugs/>

***** も く じ *****

もくじは、それぞれのページにリンクしています。小見出しは主な個所のみ掲載

はじめに	4
第1章 ダイオキシン含有農薬について	6
1 1999 年前半：農薬中のダイオキシン含有量の公開を求めて	6
1-1 農水省への質問	6
1-2 農水省の回答～目に余る情報隠し	7
囲み記事：所沢ダイオキシン問題と報道	15
1-3 農薬中のダイオキシンについて	15
ダイオキシン含有農薬 / 農薬中のダイオキシン分析の問題点	
1-4 農水省一転して、ダイオキシン調査農薬名公表	20
農薬中のダイオキシン分析調査について / トリップス協定はデータ非開示の根拠にならない	
2 1999 年後半：公表された農薬中のダイオキシン含有量	23
2-1 水田除草剤 C N P 中のダイオキシン	23
メーカー三井化学も C N P 農薬中のダイオキシン含有量を公表 / 行政とメーカーへの質問・要望	
2-2 100 農薬でダイオキシン含有量は TEQ 値検出限界以下というが	28
化学構造との関係 / TEQ のみではダイオキシン評価はできない /	
農水省がやるべきダイオキシン対策はまだまだある / メーカーまかせの調査で、安全宣言は疑問	
囲み記事：ダイオキシン類の実測値と TEQ 値	33
3 2002 年の連載：農薬等に含まれるダイオキシンより	34
3-1 市民によるパラジク中のダイオキシン調査	34
3-2 P C P、P C N B 製剤の回収指示	35
P C P のダイオキシン濃度は最大 1500ng/g / P C P 回収指示 / P C N B も回収	
3-3 C N P 中のダイオキシン問題	39
C N P 中ダイオキシン含有量調査 / 82 年以降のダイオキシン濃度低下原因は、製造工程の改造 / 2,3,7,8- T C D D はどこへ消えた / コプラナー P C B のなぞ / まだまだ、終わらない C N P のダイオキシン問題	
3-4 農水省のダイオキシン分析法の問題点	43
低い分析精度で、29 種のダイオキシン類しか報告を求めない / ベンゼン核に塩素を含むものだけを 対象にする / 農薬など化学製品中のダイオキシン規制は法律で	
3-5 オルトジクロロベンゼン中のダイオキシン	45
最高全実測値は原体あたり 9.6pg/g / 三井化学はダイオキシン濃度 0.01ngTEQ/g 以上の製品は販売し ないと / 日本軽金属蒲原工場のパラジクプラント火災事故	
4 ダイオキシンによる農用地汚染	48
4-1 99 年の環境庁による農用地のダイオキシン調査	48
4-2 01 年の環境省による農用地のダイオキシン調査	49
水田土壌には除草剤 P C P や C N P 由来のダイオキシンがいっぱい / 水田からの排出率は年間 0.0021% / 農用地のダイオキシン汚染度順位は、水田 > ゴミ焼却施設周辺 > 一般農地 /	
囲み記事 ダイオキシン汚染度のもっとも高い食品群は緑黄色野菜	53
5 2,4,5-T 系除草剤の埋設	54
5-1 高知県の埋設個所	54
5-2 岩手県の埋設個所	55
5-3 宮崎県の埋設個所	58
5-4 熊本県宇土市の埋設個所	58
5-5 2007 年、林野庁への質問と回答から～林野庁は現状維持の方針	60
5-6 市町村へのアンケート調査	64

5-7 埋設2,4,5-Tの今後について	68
環境調査と住民、自治体ぐるみの監視を / 掘削・無害化処理をめざすべき	
6 ダイオキシン含有農薬による汚染は止まず	70
6-1 PCNB無登録農薬	70
6-2 PCPによる汚染	71
山形県と茨城県のクニミネ工業の工場で / 熊本県荒尾市で、三光化学による汚染	
6-3 久留米市荒木町、三西化学農薬公害裁判の原点でダイオキシン汚染	77
囲み記事：三西化学農薬公害裁判について	
第2章 POPs系農薬について	78
1 1993年：鳥取県で漏洩発覚	79
2 1999年：いまだつづく有機塩素系農薬による環境汚染	79
2-1 水質・底質は、すべてに検出限界以下だが	80
2-2 魚類に検出される有機塩素系殺虫剤	80
2-3 土壌にも依然として残留している有機塩素系殺虫剤	82
2-4 厚労省、母乳の有機塩素系農薬調査(1999年公表)	83
3 2001年、農水省がPOPs系埋設農薬の実態調査を実施	86
3-1 土中埋設された有機塩素系農薬の調査を要望	86
3-2 農水省が実態調査に踏み切る	87
3-3 01年12月：農水省が調査結果公表～埋設農薬数量は3680トン	89
3-4 01年12月：環境省がPOPs系農薬処理の暫定マニュアルを公表	89
4 埋設POPs系農薬のその後 - 03年都道府県アンケート調査	90
4-1 佐藤議員の質問主意書と政府答弁書より	90
4-2 2003年9月：都道府県へのアンケート調査	92
4-3 POPs系農薬の処理方法	95
4-4 POPs系農薬中のダイオキシン類	97
4-5 各地の埋設POPs系農薬	98
秋田県 / 山形県 / 宮城県 / 福島県 / 新潟県 / 千葉県 / 長野県 / 滋賀県 / 鳥取県 / 福岡県 / 熊本県 / 沖縄県 / その他の道府県	
5 埋設個所以外でのPOPs系農薬による汚染	106
5-1 福岡県、永光化成の工場跡地のBHC汚染	106
5-2 滋賀県、三共(株)野洲川工場跡地で、エンドリンなど汚染	106
5-3 平塚市では、市道工事現場からBHCの袋が	108
5-4 塩尻市の池でエンドリンによる魚毒事件	108
5-5 ドリン剤とヘブタクロルの農作物汚染とBHCの飼料汚染	108
東京都武蔵野市産のキュウリにドリン剤検出 / 山形県で、0.01ppm以上のデイルドリン汚染地が27ヶ所 / 北海道産のカボチャからヘブタクロル検出 / 古畳に残留するBHCによる飼料汚染	
6 化審法と農薬	111
6-1 ケルセン(ジコホル又はジコホール)について	112
ケルセン販売中止のお知らせ / ケルセンは化審法の「第一種監視化学物質」に相当 / 4月から改定化審法が施行 / ケルセン化審法「第一種特定化学物質」指定を公布・施行 / 農水省には販売禁止農薬指定など要望 / 厚労省、食品安全委員会へのADIと残留基準の再評価を要望	
6-2 HCB(ヘキサクロロベンゼン)について	118
化審法の運用規定で追加事項のパブコメ / テトラクロロ無水フタル酸と顔料について / TCPAなどのパブコメとその結果 / 農薬中のHCBも点検すべき / 農水省への質問に旧態依然の回答 / フサライド原体メーカークレハからの回答 / 経済性優先をやめ、代替品の開発を促すべき	

第3章 ダイオキシン類土壤汚染指定地域	123
1 東京都大田区～原因物質はPCB	123
2 和歌山県橋本市～産業廃棄物焼却施設	124
3 高松市の新開西公園～PCP由来のダイオキシン	125
3-1 最高汚染値は3200pgTEQ/g	125
3-2 単なる環境汚染ではない	125
3-3 ダイオキシンパターン解析はPCPの可能性を示唆	127
3-4 PCPはどこから来たかの解明を	128
3-5 高松市への質問と回答	128
3-6 新開西公園のダイオキシン汚染土壤処理は特措法で	131
4 東京北区豊島5丁目団地～日産化学の農薬工場跡地	132
4-1 土壤汚染調査結果は最高20万pgTEQ/g	132
4-2 戦前から農薬製造してきた日産化学王子工場	133
4-3 日産化学は調査中との回答	134
4-4 都市再生機構は情報公開するというが	136
4-5 05年8月の中間報告でダイオキシン汚染拡大が判明	137
4-6 王子工場の建物の配置と塩素系誘導品	138
4-7 東京都環境局への質問と回答	139
4-8 ダイオキシン類健康影響評価検討委員会の設置	140
4-9 都市再生機構の新たな調査結果より	140
4-10 06年3月、土壤汚染地域に指定される	141
4-11 都市再生機構の無責任な言い分	141
4-12 血中ダイオキシン調査結果～分布パターンは汚染土壤と異なるが	142
4-13 高濃度ダイオキシン汚染地に保育園存続は危険だ	146
4-14 北区、対策事業費の75%を日産化学に求める	149
5 福島県大熊町～産業廃棄物焼却施設から	150
5-1 福島県への質問(07年2月12日)	150
5-2 07年11月から対策事業	151
6 三重県朝日町～水田土壤からダイオキシン	152
第4章 今後に向けて	153
1 POPs条約による国内実施計画へのパブリックコメント	153
2 ダイオキシン削減計画の変更案へのパブリックコメント	163
3 農薬工場敷地等の調査と埋設・汚染地域の浄化を	166
3-1 所管三省への質問・要望	166
3-2 農薬関連施設等の調査を	168
3-3 埋設農薬やダイオキシン汚染土壤の掘削除去と無害化を	169
第5章 参考資料	170
1 行政資料	170
1-1 ダイオキシンの環境基準	170
1-2 2,3,7,8-四塩化ダイオキシン等価換算係数(TEF)	170
1-3 環境省による農薬環境管理指針値一覧	171
1-4 道府県別埋設POPs系農薬数量(農水省2001年12月)	172
2 三西化学農薬公害裁判より～原告河内ハツエさんの証言(1975年)	173
3 ウェブサイトリンク集	175

はじめに

第27回国際ダイオキシン会議が東京で開催される前日の9月1日、2日、市民グループによる「ダイオキシン国際NGOフォーラム in 東京 2007」が開催されましたが、奇しくも、この日、農薬公害裁判の原点ともいえるべき、三西化学農薬工場の跡地が発生源と考えられるダイオキシン土壤汚染が明らかになりました。九州新幹線鹿児島ルート工事現場であったJR荒木駅(福岡県久留米市荒木町)近くの土壌から、95000pgTEQ/gのダイオキシン(環境基準1000pgTEQ/g)が検出されたということです。

同工場は、三井東圧(現三井化学)の関連会社として、1960年代から、有機塩素系殺虫剤のBHC、ダイオキシンを含有する水田用除草剤PCPやCNPなどを製造してきました。農薬による大気や地下水汚染により健康被害を受けた二家族が操業停止と損害賠償を求め福岡地裁に提訴、係争途上の83年、工場は操業停止しました(訴訟は、健康被害との因果関係が認定されず、原告敗訴。詳しくはp-77の囲み記事参照)。

当時の亡霊がダイオキシンとして、再び姿を現したかのようです。

9月14日には、環境省が「埋設農薬調査・掘削等マニュアル」案を公表し、パブリックコメントを求めました。01年12月に暫定版(05年3月改訂される)が出されて間もなく6年になりますが、ようやく、「暫定」の文字が外れました。しかし、これで、POPs系農薬やダイオキシン含有農薬に係わる問題が解決するわけではありません。

03年3月10日からの改定農薬取締法施行に伴い、農水省は、「農薬の販売の禁止を定める省令」で、販売禁止農薬として21種の成分を指定しました。その中には、以下の農薬が含まれています。

POPs系農薬：-BHC、DDT*、エンドリン*、ディルドリン*、アルドリン*、クロルデン*、ヘプタクロル*、ヘキサクロロベンゼン(HCB)*、マイレックス*、トキサフェン(カンフェクロル)*、
ダイオキシン含有農薬：2,4,5-T、PCP、CNP、PCNB
有機リン系農薬：TEPP、メチルパラチオン、パラチオン
重金属系農薬：水銀およびその化合物、砒酸鉛、シヘキサチン(水酸化トリシクロヘキシルスズ)
その他：ダイホルタン(カプタホール)

* 化審法による第一種特定化学物質指定

04年5月に発効したストックホルム条約(POPs条約)により、-BHC以外のPOPs系農薬は、国際的に、製造・使用が原則禁止され(DDTはマラリア対策用は禁止対象外)、同時に非意図的生成物質としてのダイオキシン類、HCBの排出削減もめざされることになりました。

BHC、DDT、ドリル剤や2,4,5-Tは、農薬としての使用が規制され35年以上

たちますが、1971-72年にかけて、農水省や林野庁の指示で、土中埋設されたものが相当量あり、前記条約を履行するには、これら进行处理せねばなりません。

戦中から戦後にかけて、旧日本軍が製造・使用・廃棄した化学兵器が、日本国内や中国などで見出され、住民に健康被害を与えていますが、遺棄化学兵器の調査とその無害化処理をめざす事業が、国としてとり行われています。

しかし、販売禁止農薬については、投棄・埋設個所の発見と点検調査は十分ではありません。農薬使用規制以前に当該農薬を製造していた工場、使用していた農業試験場、販売事業者による保管場所等で、投棄・埋設されたものが、全国に散在し、その後の跡地利用で、発掘され、環境汚染が発覚するケースが、いまでもみられます。冒頭の久留米市荒木町のダイオキシン汚染事例もそのひとつです。

1997年にパンフ反農薬シリーズ12として「ダイオキシンが未来を奪う～プラスチック焼却の危険」を発売して、10年を経ましたが、この資料集では、1999年以後に発行された月刊機関誌「てんとう虫情報」の掲載記事から、ダイオキシン含有農薬やPOPs系農薬に関するものを選んでまとめました。

第1章ではダイオキシン含有農薬を、第2章ではPOPs系農薬を、第3章ではダイオキシン類対策特別措置法による土壌汚染指定地域をとりあげ、現状がどうなっているかを述べ、第4章では環境汚染を防止するための今後の対策を提案、第5章に参考資料をつけました。

なお、販売禁止農薬の多くは、ダイオキシンやPCBとともに、環境庁のSPEED98の環境ホルモンリストに挙げられていますが、毒性試験結果がでないまま、2005年3月末でリストは廃止されました。その経緯については、資料集第2号<環境ホルモン SPEED98 EXTEND2005 批判>をご覧ください。



左図は、三西化学農薬裁判支援の会ニュース「葬れ! 農薬工場」第1号(74年6月10日)の表紙に当時の駅周辺地図をアレンジしました。現在、工場倉庫と駅舎の間の分岐線路部分で、新幹線の工事が行われています。